古文単語 活用形から見出し語へ ①

高校／波線の語を手がかりに、本文の形を引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
――線の語のすぐ下に続く語に、波線（〜〜）が引いてあります。この語を手がかりに活用形を決めます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」
（徒然草・第二十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 この国の博士どもの書けるものも、いにしへのは、あはれなる事多かり。（徒然草・第十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 「あの男こち寄れ」と召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに参りたりければ、……（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

4 はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

5 南面に下ろして、母君も、とみにえものものたまはず。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

6 ともに行く人々も、いといみじく物ゆかしげなるはいとほしけれど、物見て何にかはせむ。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

7 たやすくうち出でむも如何とためらひけるを、……
（徒然草・第二百三十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 木の葉にうづもるる筧の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・第十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

9 このごろの御気色を見たてまつる上人、女房などは、かたはらいたしと聞きけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

10 あやしくよそへきこえつべき心地なむする。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ①【こたえ】

名前 _____

高校／波線の語を手がかりに、本文の形を引ける形にもどす　　日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」（徒然草・第二十三段）

→ 下に用言「優なる」 → 連用形

見出し語：**めでたし**　活用の種類：**形容詞ク活用**　活用形：**連用形**

2 この国の博士どもの書けるものも、いにしへのは、あはれなる事多かり。（徒然草・第十三段）

→ 下に体言「事」 → 連体形

見出し語：**あはれなり**　活用の種類：**形容動詞ナリ活用**　活用形：**連体形**

3 「あの男こち寄れ」と召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに参りたりければ、……（更級日記）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形

見出し語：**かしこまる**　活用の種類：**動詞ラ行四段活用**　活用形：**連用形**

4 はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。（源氏物語・桐壺）

→ 下に体言「もの」 → 連体形

見出し語：**めざまし**　活用の種類：**形容詞シク活用**　活用形：**連体形**

5 南面に下ろして、母君も、とみにえものものたまはず。（源氏物語・桐壺）

→ 下に助動詞「ず」 → 未然形

見出し語：**のたまふ**　活用の種類：**動詞ハ行四段活用**　活用形：**未然形**

6 ともに行く人々も、いといみじく物ゆかしげなるはいとほしけれど、物見て何にかはせむ。（更級日記）

→ 下に接続助詞「ど」 → 已然形

見出し語：**いとほし**　活用の種類：**形容詞シク活用**　活用形：**已然形**

7 たやすくうち出でむも如何とためらひけるを、……（徒然草・第二百三十一段）

→ 下に助動詞「けり」（ける） → 連用形

見出し語：**ためらふ**　活用の種類：**動詞ハ行四段活用**　活用形：**連用形**

8 木の葉にうづもるる筧の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・第十一段）

→ 下に体言「もの」 → 連体形

見出し語：**おとなふ**　活用の種類：**動詞ハ行四段活用**　活用形：**連体形**

9 このごろの御気色を見たてまつる上人、女房などは、かたはらいたしと聞きけり。（源氏物語・桐壺）

→ 下に格助詞「と」（引用） → 終止形

見出し語：**かたはらいたし**　活用の種類：**形容詞ク活用**　活用形：**終止形**

10 あやしくよそへきこえつべき心地なむする。（源氏物語・桐壺）

→ 下に用言「よそへ」 → 連用形

見出し語：**あやし**　活用の種類：**形容詞シク活用**　活用形：**連用形**